

され、日本人参加者は24人と1年生から5年生まで幅広い学年の薬学生が参加しました。

中川(薬) 今年開催されたアジア会議の目的も世界会議とほぼ同じで、こちらの参加国はアジア太平洋地域の国々から約10カ国が参加しました。期間は1週間、今年は7月の末にタイで開催され、日本人参加者は試験期間のため3人でした。

棚元(医) 日本が参加している国際会議には、世界総会とアジア太平洋地域会議があります。世界総会には、目的は大きく二つあると考えています。一つ目はディスカッションを通じて学術的な知識を身につけ、そして世界的なネットワークを構築することです。二つ目は世界の医学生を代表した意見として提言をまとめることです。ここでまとめられた提言は国連やWHOを通じて国際社会に発信されます。世界総会は今加盟国を対象とした国際会議ですので、3月にモンテネグロで行われた際には、約100カ国から約800人の医学生が参加しました。期間は3月1日から7日間で、日本からは13名が参加しました。各国の定員は

16人と決まっていますので、毎回定員以内の人数に抑えています。そして9月に日本で開催されたのがアジア太平洋地域会議です。こちらはアジア太平洋地域を対象としていて、今年は14カ国から約200人が参加しました。期間は9月17日から4日間で、東京で開催しました。主催国の定員は大幅に増えるので、日本からは約50人が参加しました。

土屋(理) 私たちが今年参加したのは、APTSA-congressというアジア会議です。そもそもAPTSAは、情報の交換、国際競争力の向上、視野の拡大を目的としており、このアジア会議も文化的・学術的交流を通して海外と日本の情報を交換し、国際競争力を上げ、医療や学習能力を向上させていくというのを目的に置いています。参加国はAPTSAに加盟している9カ国で、今年は8月10日から2日間、会議の参加者の中で希望者だけが参加できる実技を行うプレワークショップがはじめにあり、その後メインの会議が2日間の計4日間行われました。全体の参加人数は200人くらいで、日本人参加者は20人ほどでした。



対談で談笑する医学生連盟の塚本さん(左)、棚元さん

病やたばこ、感染症など公衆衛生に関わる様々なテーマが取り扱われます。今年は各班に分かれて啓発ポスターを作り、ショッピングモールで通行人に啓発活動を行いました。

中川(薬) 開催国によってはフラッシュモブで啓発活動を行ったりもします。そのための練習時間も用意されていたりして、町の広場で踊る啓発活動は結構面白かったです。

千葉(理) 個人的には「各プレ」がお勧めです。各プレでは、開催国が決定するテーマに従い、各国の治療の歴史から現在ではどういった治療をしているのかなど幅広くそれぞれの国から発表してもらおうのですが、この企画を通してとても知識を深めることができ、かなり面白かったです。

今回のテーマは腰痛だったので、日本は今回、産業理学療法という、会社で働く人の腰痛予防や、妊婦さんのヘルスケア、出産前後の腰痛予防に関する内容で発表しました。

中川(薬) 他の国で面白かった腰痛の話はありましたか。

千葉(理) 鍼灸ですね。日本でも鍼灸はありますが、理学療法士が行うことはないと思います。あとは、タイでは理学療法士よりタイ式マッサージの方が頼られているという独自の文化が根づいていたことが印象深かったです。

中川(薬) “case study”もAPTSA-

congress特有の企画だと思いますが、これについても教えてもらえますか。

千葉(理) この企画では講師の先生が提示する症例について、他国の学生と英語でディスカッションします。症例一つでも各国さまざまなアプローチの方法や考え方があり、治療面に知識の引き出しが増えたと思います。

舟木(理) ただ、各国で治療法は違いますが、症例に対して見るポイントは似ていて、最初の進め方は各国同じような感じでした。

解剖学的、運動学的な知識はどの国も同じで、そこからの評価や治療法が異なっているんだなという発見がありました。

棚元(医) 個人的におすすめなのが、夜間に行われるPlenary(総会本会議)です。各国から代表団が参加し、IFMSA全体の運営に関して投票したり、世界の医学生を代表とした意見を文章にまとめて採択したりという、意思決定のプロセスを垣間見ることができます。

日本の学生にはあまりなじみがなく、関心を持ってくれる人が少ないのですが、海外の学生は政治的な働きかけ(アドボカシー)に興味を持って活動しているので、その場で活発な議論が行われていて、いつもとても驚かされます。

(4ページへ続く)

各国の治療法の違い学ぶ パーティーでは異文化を体験

—それぞれの企画の共通点と相違点を見つけるため、まずはアクティビティを挙げてもらえますか。

中川(薬) 似通っている点としては、セッション(国際会議)、テーマイベント(シンポジウム/講義)、ワークショップ(分科会)、カルチャーパーティー(文化交流会)がありますね。あとは、IFMSAとAPSの会議には共通してリーダー育成プログラムも開催されています。

—世界会議の目玉だと思うイベントや自分の団体特有と思うイベントは何ですか。

海野(薬) “international night”が一番の目玉だと思っています。この企画は各国3~4分間ダンスや歌といっ

たパフォーマンスを民族衣装を着て行ったり、自分たちの国のブースを設けて各国特有のお菓子や飲み物を出したりして、交流を深めることができます。この企画の間だけでも世界中の食べ物や人に会えるので、プチ世界旅行をした気分になりました。とても楽しかったです。

中川(薬) 世界会議もアジア会議も毎晩パーティーを開くという慣習があり、開催国の文化を体験できるパーティーやプールパーティー、バーベキューやウォークラリーと開催国が趣向を凝らして毎年様々な魅力あふれる企画を開催しています。

海野(薬) プログラムの一つである啓発活動も特殊で、トピックは糖尿



あなたの、 かかりつけ薬局へ。

あなたに寄り添い、健康をささえる
“いつもの窓口”になります。



阪神調剤ホールディング株式会社

